であいこうか

二胡の音色が 紡ぐ地域のおはなし 大佛 忠子さん

甲南町在住の大 佛さんは、中国での伝 統楽器「二胡」の奏者で、 この楽器を広めようと市 内で演奏教室を主宰した り、公演活動を展開し ておられます。



◆二胡は誰から学ばれたのですか?

中国の北京にある大学に留学した時、課外活動 として二胡サークルのようなものに入部し、メン バーでお金を出し合って講師を招くなどして、学 びました。約半年の間でしたが、簡単な曲は大体 奏でられるようになりましたよ。

◆日本に戻ってからも続けられたのですか?

いえ。帰国してからはやめていましたが、大阪 から滋賀に越してきて、環境の変化や子育てで少 し心が疲れてしまった時期があるんです。その時、 ちょっと気分を変えようと、楽団に入団して再開 しました。

◆それからずっと続けられていたのですか?

そうですね。その楽団で6年ほど活動した後 自分たちで新たな楽団を起ち上げ、10週年を迎え るまで在籍しました。今は、二胡の教室を営む一 方で『Watone』(話と音)という活動をしています。 この活動は、滋賀各地に伝わる民話を、二胡の 演奏をBGMとして聴いていただくもので、私と もう一人の語り部とで活動しています。

◆なぜ民話を?

滋賀生まれではない私にとって、こちらに残る 民話は、地域の謂れを伝えるとても貴重なものだ と思うのです。実際、民話を聞いた後には、それ までなんともなかった地域の風景が一変します。

各字には必ずと言ってよいほど民話が伝承され てきましたが、最近は段々失われてきているよう で、すごく残念です。

私たちの活動で、特に子どもや若い世代の方々 に、地域で代々受け継がれてきた知恵が詰まった 民話を聴いていただければと思っています。

Watenel OFF THE BRIDGE OF THE TEST

地域に伝わる貴重な話をWatoneの活動で 広め、残していきたい方、他地域に残る民話を 聴いてみたい方などなど、ぜひ一度ご相談くだ

問い合わせ Watone 2090 7887 4313

気軽にまちのお話を

滋賀県立大生からのフィールドワーク結果報告

参加者は、

う。ぜひ続けてほしい」と、 この提案を受け、

▲多くの人がまちづくりに参加できる仕組みを提案

探しのことです。

∪「肩肘張らずにまちのことを話せるこういう機会が必要なんだと思 この日の取組に満足そうに話. はどうかという提案がありました。 ちとまちづくりについて話す場を作って 作り、その過程で小・ まちづくりについて熱心に意見を交換 同学区の「ゆるキャラ」を 中学校や保護者た

地域調査の結果報告会が1 名が参加しました。 中央公民館で行 た同大学が綾野学区で行ったまちの魅力 この地域調査とは、 綾野自治振興会と滋賀県立大学協働の われ 昨年9月に行わ 学区内外から約30 · 月 18 日 、 水口

大人として今まで以上の責任感を 平成26年甲賀市成人式

れて

いま.

ソングライター

や、

プロ

あ

なの協力で良い式ができました。 んだ小西自然実行委員長は「みんこの企画に中心となって取り組 これからは大人として今まで以上

の華々しい姿に会場は熱気に包ま

▲この日だけの特別チーム 『響~ HIBIKI ~』の演奏

式典後に行われた記念イベントでは、 人によって組織された成 を制作するなどして積極的に また多く 和太鼓奏者などによるライブが行われ、 \mathcal{O} あ 新成 いこうか市民ホ 市内出身で新成人のシンガ 人に参加してもらおうとテ 人式実行委員会が R活動を行いま ルで行わ 毎週のよ

うに会議を重ねて企画

式は、

平成26年甲

人の新成-

ま

レビ出演やポスタ

元気なまちか

南アフリカ共和国で科学の楽しさを広める

国では、平成28年1月までの2年

国立リンポポ大学科学館に配属

ました。

これらの経験を生か

し 同

工学と物理学を学び、

産業機械メ

した。

を紹介し ど日本文化 を教えるな

ŧ

運動習慣をつけてもらおうと、

ら楽しく体を動かすことで幼児期に

も未来課が毎月実施しているもので

―で半導体の基礎研究に携わられ

ショ

ーを担当されます。

され、

展示品の提案やサイエンス

青年海外協力隊・石田雄起さん

されました。 に参加する信楽町の石田雄起さんが 外協力隊として、 月 14 日、 石田さんは、 国際協力機構(一 南アフリカ共和国に派遣 大学、 ボランテ Ċ A 大学院で機械 アイア事業

ミシガン州姉妹都市3市中学生交流派遣事業

▲抱負を述べる石田さん

文化の違いを体験

表敬訪問した石田さんは、

出発前の昨年12月24日、

市役所を 「同じ国

アフリカのかけはしとなるよう頑

に教育を通して貢献したい」と抱負

正木副市長は、

「日本と南

に住む人が手を取り合う社会づくり

ミリ

目で見て学 とって貴重 生徒たちに 流を深め、 ホストファ いを自分の 文化の違 きとともに と 交



▲壮行会に参加した20名の生徒

楽しく体を動かし運動の習慣づくりを

みました。また、ル 全身を使うスト

探したり した。

ソする大型カルターベルールを守ってせ

、ルールを守って走っトレッチあそびを楽しいたストレッチ体操や

音楽に合わ

せたス

もしま

組んでみようと思い

参加者は、

から家でも取 ます」「体力づく

りに役立ちます」と笑顔で話

7

※「親子ふれあい運動広場」は広報紙15日 号掲載の「子育て情報」で案内し 7 い #

学校で折鶴 ミシガン州デウィッ 遣されています。 おり、これまでにも多くの中学生が派 外国の各都市との中学生交流を行って 警察や消防署などを見学したほか、 かれて訪問し、 市では、 現地では、中学校で授業を受けたり、 トラバ 市内の6中学校から20名が、 姉妹都市提携を結んでいる ースシティ 月10日から18日まで 下市 市を3班に分 シャ

親子ふれあい運動広場



親子ふれあい運動広場が

月8

かえで会館で開かれ、

親子17組

小人

が参加しました。

この事業は

親子がふれ

あい

なが

13 50**37** 2014.2.1